

ながおかの 防災かわら版

第3回-7. 13水害
防災サマープログラム

令和4年9月21日発行
一般社団法人
長岡青年会議所
未来へ繋ぐ灯り委員会
後援 長岡市教育委員会

防災×長岡の精神性

わたし達の住む長岡で7. 13水害、新潟県中越地震という2つの大きな災害(さいがい)が起こってから18年がすぎました。災害からの復興(ふっこう)には長岡人の精神性が活かされてきました。『ながおかの防災かわら版』はその史実(しじつ)と共に復興にかけた想いと精神性を5回シリーズでお伝えします。

7. 13水害 被災体験者インタビュー



当時17歳で水害を体験した西田将吾さん (ナガオカバル Luigi店主)

被災時の様子

「家にいたら、土手のほうからじいちゃんや『だめだ！決壊(けっかい)した！』と叫びながら走ってきました。じいちゃんに言われるまま大事なものを2階にあげていたら、すぐ家に入ってきて「あ、やばい」と。それからどんどん水のかさが増して、じいちゃんが『決壊だ！』と言った**15分後には家の中もひざくらいまで水が上がって**冷蔵庫も家具も水で浮いて、それからすぐに1階はもう足がつかないくらいになりました。2階の窓からのぞくと決壊したところが見えて、目の前の家が音を立ててねじれて倒れました。生まれ**初めて『死ぬかもしれない』と思**いました。急なことで2階には食べ物も飲み物もまともになく、トイレもない状態で一晩なんとか過ごして、翌朝、救助隊(きゅうじょたい)のゴムボートで避難所(ひなんじょ)へ行きました」

復旧・復興について

「被災したこと自体も大変でしたが、復興作業はものすごく大変でした。家の中のあらゆるところに泥を全部かき出さなきゃいけないし、『**また人が住めるようになるのかな**』と不安になりました。もちろん家族や知り合いも来て手伝ってくれましたが、すぐ次の日から毎日10人くらいボランティアの方々が順番に来てくれて、**初めて会った方々が7月の暑いなか作業してくれたのは一番ありがたかったです**。Tシャツやタオルといった救援物資(きゅうえんぶつし)もとても助かりました」

伝えたいこと

「もし被災(ひさい)しそうになったときは、テレビなどの避難指示に従ってちゃんと避難すること。まず**自分の命を守って、次に自分の状況(じょうきょう)やほか避難できない人がいるかなどを大人の人に伝えること**、周りの命について考えるのはさらにその次です。あとは災害があったときのことを家族と話しておくこと。**防災の勉強をした時にはお母さんやお父さんに聞いてみてほしいです**。『もし水害があったらどうしたらいいの？何を持っていけばいいの？』って」

共助の精神

「災害だけに限らず、大変なことはたくさんありますが、困ったときや助けてほしいときは『**助けてほしい**』と声を上げることが大事です。そして、助けてもらったら『**ありがとう**』と伝えること。逆に頼られたときは助けてあげてほしい。そういう気持ちで助け合いをしてくれたら嬉しいです」



メッセージ折り鶴、災害セレモニーへ

7・13水害
防災メモリアルに参加し、皆さんと共に作成した千羽鶴を献花台（けんかだい）に納め、18年前に刈谷田川（かりやたがわ）が決壊した12時52分に合わせ、1分間の黙とうを捧げました。



長岡青年会議所ボランティア活動報告

今年8月には東北・北陸地方を中心に記録的な大雨となり、新潟県も村上市、関川村で被害が発生しました。長岡青年会議所もボランティア活動に参加。



被災地で床上浸水した家屋の泥（どろ）出しを行いました。もし災害時に被災をして困（こま）ったときは、長岡市社会福祉協議会ボランティアセンターへ相談してみましよう。

メッセージ折り鶴募集

新潟県中越地震から18年が経ちます。犠牲（ぎせい）になられた方々への追悼（ついとう）と支援（しえん）の感謝を伝える復興（ふっこう）記念行事が、地震発生の10月23日（日）に、アオーレ長岡と妙見（みょうけん）メモリアルパーク、山古志（やまこし）地域、川口地域で行われます。みなさんと作るメッセージ折り鶴を各会場の献花台（けんかだい）に添えさせていただきます。

本かわら版と共に配信した学校用アンケート、または長岡青年会議所（下記バックナンバー）へお問い合わせください。



防災サマープログラム

8月11日に長岡震災アーカイブセンターきおくみらいにて防災サマープログラムを開催！参加者は中越地震の再現（さいげん）CG映像（えいぞう）や最新の避難所（ひなんじょ）グッズ、災害食などを見学し、実際に被災（ひさい）した時の行動を考えるクロスロードゲームや新聞紙スリッパづくりを体験しました。参加した小学生からは「二度と地震がないように」「地震のことがわかった」「家での備（そな）えを知れた」と、災害時を想像（そうぞう）して、日ごろからの備えることの大切さを家族と共有しました。実際に参加者が取り組んだクロスロードゲームに友達や先生、家族と一緒に取り組んでみましょう！



中越大震災妙見崩壊現場の被災と救助活動について解説するきおくみらいマネージャー・防災士の赤塚雅之さん

クロスロードゲーム

日曜日、友達と外で遊んでいると、**大きな地震が発生！**急いで避難所に行ったほうがよさそう。みんなはどうする??

- ① お家の人に連絡する
- ② 緊急避難場所へ行く
- ③ 家に家族を迎えに行く

また、これらの行動をとったときにどんな困りごとが想定されるかな？友達と話し合ってみよう。



ながおか防災かわら版
バックナンバー

ご意見・ご感想
お聞かせください。

